



24.8%

東京都における 私立中学生の割合

平成30年度「学校基本調査」(文部科学省)

年明け早々のニュースで毎年のように取り上げられる、中学受験を控え合宿する小学生たちの姿。お正月休みも返上し鉢巻き姿で勉強漬けとなっている小学生自身はもちろん大変だろうが、それをサポートする親や家族も奮闘の日々を送っていることだろう。

中学受験は国立や公立の一部の中学校でも行われている。とは言っても数の上から見れば、受験が必要な中学校は、私立のほうが断然多い。首都圏ではクラスの子の大半が中学受験をする地域もあると聞かすが、その分、私立中学校の数も多い。

平成30年度「学校基本調査」(文部科学省)を見ると、都道府県別の私立中学校数で最多は東京都で187校となっている。都内の全中学校数の実に23.3%が私立中学校なのである。

同じく都道府県別で、今度は私立中学生の割合を見ても、やはり東京都が最も高く24.8%となっている。全国平均の7.3%と比べ3倍以上、約4人に1人が私立中学生という計算だ。

◆都道府県別の私立中学生の割合

	全中学生数	私立中学生数	私立中学生の割合
東京	300,085人	74,504人	24.8%
高知	17,432人	3,137人	18.0%
京都	66,035人	8,689人	13.2%
奈良	36,791人	4,566人	12.4%
神奈川	225,555人	24,907人	11.0%
中 略			
山形	28,417人	0人	0%
全国	3,251,670人	238,326人	7.3%

「良い教育を受けさせたい」という親心は全国同じでも、教育費には地域差があるようだ。

36万9,515円

公立中学校3年生の 補助学習費

平成28年度「子供の学習費調査」(文部科学省)

「入学金や授業料、寄附金などを納めなければならない私立中学校と違って、公立中学校はお金がかからないから安心」と油断していると、思わぬ出費に驚くかもしれない。

平成28年度「子供の学習費調査」(文部科学省)によると、公立中学校の学校教育費は年間13万3,640円と私立中学校の99万7,435円に比べて、圧倒的に少ない。しかし、「学校外活動費」のうち学習塾費や家庭教師費、参考書や問題集の購入費等を含む「補助学習費」を見てみると、中学3年生では私立よりも公立のほうが高くなっているのだ。

◆学年別に見た補助学習費

	公立	私立
中学1年生	14万8,870円	17万7,270円
中学2年生	19万5,165円	20万1,246円
中学3年生	36万9,515円	23万3,976円
平均	23万9,564円	20万4,112円

公立の中学3年生の補助学習費36万9,515円の内訳を見ると、最も多くを占めているのは学習塾費で32万2,386円、次が家庭教師費等の2万1,889円。この2つだけで補助学習費の約9割を占める。

中高一貫教育で高校受験が無いことが多い私立に対し、公立は高校受験を控えている。希望の高校に合格するには、学校の勉強だけでは足りなくなってくるのだろうか。

中学3年生になって急上昇する学習塾費や家庭教師費に家計がパンクしないよう、子どもが公立中学校に通っていても、早めの準備をしておきたい。

(執筆/ライター 更田 沙良)